vol. 2269
【発　行】大分県高等学校教職員組合教宣部　大分市大字下郡496-38　大分県教育会館
TEL／(097) 556-2838　FAX／(097) 556-8998　MAIL／ohtwu@view.ocn.ne.jp

大分県高教組情報

【発行者】大野　真二　【印　刷】（株）佐伯コミュニケーションズ　【売　価】30円（組合員の購読料は組合費の中に含んで徴収しています）

今号の掲載内容（掲載順）

●第500回中央委員会　　2月22日（火）　13：30～　教育会館多目的ホール
●九協2.11平和教育研究集会に参加して　　2月11日（金）
●支部解散結成　　2月26日（土）　14：00～　教育会館201・101研修室

第500回 中央委員会開催

と　き：2月22日（火）　　ところ：教育会館多目的ホール

第500回中央委員会が開催され、本部が提案した秋季年末闘争などの中間総括と年度末・年度初め、春季生活闘争などに対する当面のとりくみが承認されました。

＊＊

執行委員長あいさつ（要旨）

大分高教組第500回中央委員会の開催にあたって、執行委員会を代表してごあいさつ申し上げます。

切りのよい第500回中央委員会です。前回499回中央委員会のあいさつでも、少し説明しましたが、私たちの大分高教組は結成73年目ですから、単純計算では年７回程度中央委員会を開催している計算になります。古い時代は資料が乏しく、確認できませんでしたが、1969年に日教組加盟を決定した後、いわゆる“新生高教組”となった1970年５月の中央委員会が第256回です。1948年の結成から1970年までの22年間の回数ですから、年平均で10回を越えています。80年代からは年５回開催に落ち着き、90年代になると年４回の開催です。ただしこれには定期大会の開催のための中央委員会が含まれています。1998年の臨時大会で高教組規約を改定し、大会前の中央委員会を廃止し、以後は年３回、そして2004年から年２回開催に落ち着きました。こう振り返ってみると、現在の年２回開催では組織の運動量が低下したような印象を受けますが、前回も説明したとおり、今では拡大戦術会議や賃金確定対策や人事闘争について開催している会議も、正式な機関会議である中央委員会で議決していたわけであり、現在の高教組運動も、先輩方の組合活動にかける熱意をしっかり受け継いでいるといえます。

さて、２月に入り当局から３件の投げかけがありました。まず、一時金の0.15月引き下げについてですが、県が地公労に国準拠で６月一時金で昨年12月の引き下げ相応分を引き下げたいと通告してきました。他県がすべて受け入れている中、大分県だけが拒否することは難しい状況であり、地公労としても受け入れやむなしと判断しています。次に、定年延長について県は、今年の９月議会に条例改正案を提示する意向を示し、素案を提示しました。この件については、地公労の交渉に応じるとのことであり、現時点で分かっていることを討議資料にまとめましたので、地公労交渉に向け職場での討議をお願いします。三番目は、一年単位の変形労働時間制の導入についてです、県教委は両教組に素案を提示しましたが、個人単位で導入できるなど、あまりにも現場実態からかけ離れており、今後も協議を続けます。

コロナウイルス感染拡大は、いまだに続いており一向に終息の時期が見えません。目前に控えている高校入試も、昨年同様、例年にない配慮が求められています。

最後になりましたが、今年７月には参議院選挙が行われます。教育の現場の声を、直接国政に伝えるために、私たちは、日教組・日政連の予定候補古賀ちかげさんの当選を勝ち取らなくてはなりません。公立学校の現場を知る国会議員を失うわけにはいきません。古賀さんの必勝に向け、全力でとりくみましょう。

私たちをとりまく環境は厳しい状況ですが、その改善に向け組織の力を結集し、運動の方針を皆で確認しあう議論をおねがいして、執行委員会を代表してのあいさつとします。

議長：（左写真左から）
後藤恵美さん（海洋科学分会）
佐々木正洋さん（竹田分会）

議事運営委員：（右写真左から）
荻本久美さん（大分東分会）、
江藤恵美さん（日田定時制分会）
中西栄二さん（大分工業分会）

質　問

◇民主的で働きやすい職場づくりのとりくみ

中津東：タイムレコーダのデータは今後どのように扱っていくのか。

本部：県との協議の資料として使っている。勤務実態改善検討会や総括安全衛生委員会では、勤務時間の資料として扱い、県としての対応を求めている。そのためにも皆さんに正確な打刻をお願いしたい。

◇教育文化活動のとりくみ

三重総合：「教育制度検討委員会」において、一部の学校に志願者が集中し、定員割れの学校増加の状況に対して、高教組としてはどのように対応し、考えるのか。

本部：大分市内の学校に集中し、各地域から入学している。公教育として教育水準の維持・向上をめざすべきだが、全県一区で一部に集中すると、それ以外の地域との格差が生じている。経済的状況で行ける人、行けない人がいることは教育の機会均等とはいえない。全県一区の導入の際に懸念されてきたことが、現実になっている。これを更正しなければならない。

討　論

◇教育文化活動のとりくみ

三重総合：全県一区について、遠距離通学生の時間的、経済的負担増について、県教委に交渉の場で発言してほしい。

◇教育予算増・定員増のとりくみ

中津東定：調理員の採用がなく、会計年度任用職員（非常勤）であるが、様々な制約があるので、地域対応などをお願いしたい。

◇賃金引き上げ、生活向上のとりくみ

中津東定：部活動手当について、以前の方が良かったの声がある。部活動の時間を短くするのは難しいので、手当を上げてもらいたい。また、土日の通勤手当を出してもらいたい。

◇民主的で働きやすい職場づくりのとりくみ

大分西：部活動の社会体育への移行について、国レベルでモデル校を指定して動いていくと言っているが、大分県ではどうか。

大分西：高文連の事務局をしているが、専門委員長にも組合員が多く、この一年助かっている。組合員で良かったと感じているが、高校教育課からは、受験生に対して、コロナ対策を言いながら、超勤減らせというが、県教委からは教員の勤務時間の配慮がなされていない。運営委員会に入っている組合員が指摘してほしい。また、書道の非常勤は、５限連続の授業。他分掌からも様々な依頼あり、時間外の揮ごうを頼む組合員もいる。非常勤に対して、やるべき仕事か否かの判断を組合員こそが学習し、着任交渉等で気付けていない管理職等に指摘するべきではないか。

◇組織強化・拡大のとりくみ

安心院：理科の欄に地学を入れてほしい。何十年前は採用があったが、除かれているようだ。

日田三隈：地学の表記については、採用予定が無い場合は０を入れ、採用試験が行われていないこと示し、地学の先生の採用を強く薦めてほしい。地学のベテラン教員が退職し採用がないと、大分県の地学教師は育たない。

爽風館定：地学基礎を授業でしているので、前向きに採用をお願いしたい。

大工定：大分工や情報科学の理科の実教がいなくなり、指導主事も知らない状況がある。理科の実教の採用試験がなく、工業、商業などの実教とひとくくりにされている。ぜひ採用試験をやってもらいたい。

第43回九協「2.11平和教育研究集会」（２月11日Web開催）

日教組九協の2.11平和教育研究集会が、Web開催されました。集会は毎年九州各県の持ち回り開催が基本ですが、2020年度の沖縄集会が、コロナウイルス感染拡大で中止となったため、沖縄県教組・沖縄高教組の強い希望で2021年度も沖縄集会とすることとなり、対面開催にむけ準備を進めていました。しかし、年明けの感染拡大のため、残念ながら、沖縄県主催のWeb開催に変更しました。２月11日（金）に開催した集会では、沖縄県教組OBの下地史彦さんが「校庭の地下から沖縄の過去と未来が見える」と題した講演を行い、その後４分散会が開催されました。大分高教組からは４名が参加し、第１分散会で、糸永伸哉さん（爽風館定時制分会）が、前任校である宇佐支援学校での平和学習のとりくみを、「糸口山の奇跡～小倉陸軍造兵廠　糸口山製造所の跡を求めて～」としてリポートしました。

参加者感想　工藤　友美（鶴崎工業分会）

恥ずかしいことに、久しぶりに平和教育について考えた。思えば、平和教育について考えたのは、数年前の県教研の講演会（沖縄の基地問題）以来だった。沖縄では、軍のヘリが墜落した場合についての避難訓練をしているということや、沖縄での平和教育についてはマンネリ化や若い世代への継承が難しいなどの問題点を聞いて、驚きを感じた。現在、高校では平和について、生徒と話すことがなければ、教員同士で話すこともない。今回、他県や学校種の異なる先生方とこのように交流をすることで、平和教育について考えさせられる機会をいただいた。沖縄や韓国の平和の旅に参加した経験もある。じゃあこのことをどのような場面でどのように伝えたら良いのか、考えていきたい。

参加者感想　糸永　伸哉（爽風館定時制）

一昨年に前任の宇佐支援学校高等部でとりくんだ、戦時中に兵器工場の疎開地であった、学校のある糸口山を、遺構を求めてフィールドワークした様子と、アニメ「君の名は」のストーリーを絡めながらの平和学習を紹介しました。高校生らしい「学びの深さ」と、地域教材としての「自分事感」、それに生徒の状況を考慮した「感性への働きかけ」を意識したものでしたが、短縮版の模擬授業に「生徒の気持ちでワクワクできました」という感想ももらえて良かったです。そのうえで、コロナ禍での様々な制限や、一方的なマスコミの報道に「あの頃」を重ねてしまう私の問題提起にも共感いただけ、「嫌なことを嫌と言うことから始まるんじゃないか」という他県の先生の言葉には私も深くうなずいて、「教え子を再び戦場に送るな」をリアルに感じた時間になりました。

大分西部、大分中部、大分東部 新しい支部が結成されました

坪田健二（中央支部）　林田健吾（大分支部）　栗林裕之（準備委員長）

中央支部・大分支部解散大会、新３支部結成大会

高教組中央支部・大分支部の再編に伴い、2022年３月31日をもって中央支部と大分支部は解散し、４月１日から新たに３つの新しい支部（大分西部、大分中部、大分東部）が始動します。

２月26日に、中央・大分支部各分会の代表者が参加して両支部の解散大会、引き続き新しい３支部の結成大会が開催されました。

結成大会では、瀬尾彰一副委員長の結成宣言に続き、栗林裕之新支部結成準備委員長より、中央・大分支部再編についての組織機構整備検討委員会答申が昨年２月の中央委員会で承認された後、約１年間にわたる準備委員会の経緯が報告されました。また、本部を代表して大野真二執行委員長から、1948年の高教組発足から今日にいたるまでの大分地区の支部の変遷と、今後、新支部が協力しながら高教組運動を盛り上げていく期待が述べられました。

来賓として連合大分中部地域協議会事務局長の関口功二様、髙野博幸大分市議、前高教組委員長であり、教職員共済生活協同組合大分県事業所所長の横道信哉様、大分市平和運動センター議長の野中高美様、九州労金大分支店長の後藤寿之様、高校生協専務理事の三重野修次様がご臨席され、お祝いと激励連帯のあいさつをいただきました。

３つの支部には、本部から新しい支部旗が贈呈され、最後に大野委員長の団結ガンバロウで会を締めくくりました。新

型コロナウイルスの感染が広がっている状況を勘案し、参加人数を制限しての開催でしたが、高教組の新たな支部としての記念にふさわしい出発の会となりました。

これまで中央支部・大分支部を支えていただいた多くの組合員の皆さんへの感謝と共に、これから長く続く、新しい３つの支部をよろしくお願い申し上げます。

執行委員長あいさつ（要旨）

大分中央支部・大分支部の解散、ならびに大分地区の新支部結成大会にあたり執行委員会を代表してごあいさつ申し上げます。

大分地区の両支部においては、高教組発足以来、分会数においても組合員数においても常に県内最多を数え、高校再編によって統廃合が進んだ現在においては、両支部で高教組全体の約半数を占める状態となっており、まさに高教組運動の中核を担ってこられました。

今回の支部再編については、新支部結成準備委員会を組織し細部に至る様々な検討を行いました。準備委員の皆さんに感謝申し上げます。再編の経緯については準備委員会の栗林委員長があいさつで述べられましたので、重複を避けますが、今回の再編で大分地区の支部活動がさらに活性化され、より一層、高教組運動を推進する役割を果たしてくださることを期待します。

さて、古い資料でいくつか分かったことがありますので、ご参加の皆さんとともに中央支部・大分支部の歴史を振り返ってみたいと思います。

1948年に、大分高教組が結成され、県下各地域に、通常支部といっていますが正式には地区高教組が結成されました。大分地区は最初から二つに分かれておらず、大分地区高教組、いわば大分支部で発足しています。中央支部と大分支部に分かれたのは、1965年４月で、これは高教組の周年記念誌にも記載されていますが、なぜ２つに分けたのかの理由は、いろいろ資料を探し、先輩方にも尋ねましたが、分かりませんでした。ただ、65年の支部分離の際、当時の碩南分会（野津原分校も含む）が大分支部所属となっています。これは推測ですが、大分中央支部の“中央”の由来は、碩南分会が大分支部に所属したため、両側を挟まれた形になっているためではないかと思われます。その後、1976年度に、碩南分会が中央支部所属に変更されています。同じ1976年の第61回定期大会には、高教組規約第２条を変更し、地区単位組合の連合体の形式から、「地区ごとの行動機関としての支部に変更することを次期定期大会で決定することを下部討議に付す」とされており、大分西支部と大分東支部へ名称も変更する案が提案されていました。しかし、翌年の第62回定期大会の議案には地区単位組合を支部へ変更する規約改正の議案が見当たらず、名称の変更もなく今に至っています。

これらの歴史をふまえながら、新たに大分地区で３つの支部が発足します。大分地区の支部は、各種集会の参加割り当てや、さらに高教組が主体となって支える自治体議員選挙のとりくみなど、他地区の支部以上に大きな負担をかけることとなりますが、今後とも、高教組運動の中核を担い、運動をさらに進める力となることを期待し、新支部結成大会のお祝いの言葉とします。

≪新支部結成準備委員会の皆さん≫

松本幸夫･坪田健二（大分商業）、伊達孝明（大分上野丘）、加藤智子（大分豊府）、宮邉勇一（由布）、林田健吾（情報科学）、栗林裕之（鶴崎工業）、瀬尾彰一・仁木史絵（本部）